

## アジア経営学会第14回全国大会（2007年度）統一論題趣旨

統一論題：アジアの競争力ークラスター・ネットワーク・イノベーションー

### 統一論題趣旨

アジアの発展が著しい。「世界の工場」として、その発展ポテンシャルへの期待は衰えることがない。各国に集積する製造業クラスターはその充実度をさらに高めつつあり、各方面からの投資吸収体として強固な骨格を形成している。現在のクラスターは、地政学的に国境を持たない特徴を持つと思われる。つまり、各クラスターがネットワーク化されて繋がり、国境を越えたヒト、モノ、金、情報の流れを構築していると考えられる。ネットワーク化がクラスターの潜在力をさらに引き出し、多様な技術・製品、ビジネスモデルを生み出している。また、ネットワークは、その構成要素を組み替え、新たな流れを求めて常に変わり続けられると思われる。この変化がアジア発のイノベーションを生みだし、世界を引きつける魅力ともなっている。グローバル・ビジネスを考える現代企業にとってアジアを活用することが、その成長を支える大きな礎になっている。

他方では、絶え間なく変化し続け、千変万化するアジア製造業の姿を正確に捉えることが難しくなっている。変化を主導するのは、各企業の戦略構想、経営・生産思想であろう。しかし、表層上の事象を捉えるだけでは、本質的なアジアの現在が見えてこないと思われる。誰が、どのような考えで、アジアを舞台とした事業展開を描いているのだろうか、興味深いところである。

今回のアジア経営学会全国大会では、このようなアジアのポテンシャルをさらに深く理解すべく、クラスター、ネットワーク、イノベーションをキーワードにして、アジアにおける錯綜する企業・産業の競争優位獲得のありようを解きほぐし、アジアの競争力を検証したい。